



森林レンジャーがゆく (105)

幸福の運び屋

10月の終わり、秋が深まるころの爽やかな北東風が流れていた日に、秋川で鳥類の観察調査を行っていました。タカが獲物を探している場面を双眼鏡で追っていたら、ずっと後ろの空に高空でとても印象的な鳥の群れが目に入りました。まさか、と思いながら、「ツルですね！」と言葉にしているうちに鳥肌が立ちました。これは多分、令和2年の活動において最も記憶に残るできごとだったと思います。

ツル類はサギなどに似ていますが、模様が異なり、首を伸ばして飛ぶことから簡単に見分けられます。その日見たのは「ナベヅル」という種類で、たった7羽の群れでしたが、とても存在感がありました。市内に留まらず、上空でゆっくりと旋回しながら西南方向で横断する姿を見送ることができました。

ナベヅルは、世界で約1万2千羽しか生息しないといわれている種類ですが、分布はアジアに限られており、その約9割は、毎年国の特別天然記念物に指定されている出水市（鹿児島県）の「鶴の渡来地」で越冬します。「国際希少野生動植物種」や、環境省の「絶滅危惧Ⅱ類」（VU）に指定されており、タンチョウと並ぶ貴重な鳥

類の1種です。関東を横断する機会はほとんどなく、あきる野で会えるのは奇跡に近いのです。この世の中だからこそ、奇跡が起きるこのあきる野の「山・里・川」が、これだけ身近に自然があることに感謝すべきではないかと改めて実感し、市民の皆さんにもその素晴らしさや大切さを知っていただきたいと思います。個人的には、ナベヅルの群れは2021年に向けて幸運を運ぶかのように見えました。

皆さんも、あきる野のよさを再認識し、よい1年に向かいましょう。2021年は、奪われた日常を取り戻せることを祈ります。（パブロ）



市内上空を横断したナベヅル